

■がん拠点病院推進センター

はじめに

地域がん診療連携拠点病院として国からの要求を満たす以上に、がん患者さまが安心して療養できる環境作りに努めている。

1. 2021年度目標

財務の視点

1. 強化事業費の有効運用

顧客の視点

1. がん情報サイトでの情報提供の充実

内部プロセスの視点

1. 緩和ケア関連知識強化

学習と成長の視点

1. がん看護教育の充実

2. 2020年度評価

地域がん診療連携拠点病院として、強化事業費の活用及び事業計画も予定通り遂行できた。

3. 業務紹介

1. 地域がん診療連携拠点病院として、大きく7つの事業項目がある。

①がん医療従事者研修事業 ②ネットワーク事業 ③がん相談支援事業 ④普及啓発・情報提供事業 ⑤在宅緩和ケア地域連携事業 ⑥緩和ケア推進事業 ⑦がん患者の就労支援に関する総合支援事業である。7事業を推進するにあたって、厚生労働省からの強化事業費を有効的に活用し管理運用している。

2. 二次診療圏内医療機関向けや院内向けの研修会（緩和ケア研修会やがん看護研修会を含む）や講演会の立案及び開催をする。

3. 地域がん拠点病院指定更新を受けるため、年1回指定要件基準を満たしていることを証明するために現況報告書を作成し、県を通し厚生労働省へ提出する。

4. がん治療棟で充実したがん治療体制が整ったので、がん診療報酬について、今後見直しを掛け、より高い報酬を得られるよう医事課担当者と共に改善する。

5. がん相談・がん登録等担当者のサポートやがん情報サイトの作成や会議の運営をする。

6. がん連携パスとして

主な目的は、地域がん拠点病院として「地域連携クリティカルパス」を計画、運用する。しかし同時に、地域でのがんに関わるすべての事柄（発症予防、早期発見、早期で質の高い治療、信頼できるフォロー、緩和医療）すべての関係者（市民、患者、公的機関、医療従事者、福祉従事者）の在り方を見直し、最適な医療・福祉を提供できる、あるいは享受できる環境を作ることも目標としている。

2010年度から「顔の見える連携」をめざし安房、館山、いすみ勝浦、茂原、君津木更津、

市原まで通算計170施設の訪問を行った。地域連携クリティカルパスは2014年度までの目標をクリアすることに成功した。同時に訪問で得た地域医療機関の情報を整理し病院職員と共有するために院内ホームページを作成した。地域医療機関からの当院への要望を部長会で医師に伝え、紹介状返書のあり方、当院への紹介時連絡先の整理などの問題解決を図った。

7. 構成員としては、センター長亀田俊明(病院長)、事務スタッフ3名で活動している。
がん拠点病院推進メンバーとしては、診療部、看護部、薬剤部、各専門部会のコメディカルと事務スタッフ16名が情報共有しながら協業している。

4. 年間活動内容と実績

1) 緩和ケア研修会について

①第19回緩和ケア基礎研修会

2020年11月8日(土)に実施し30名が参加した。

厚生労働省は、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標としている。そのため、当院疼痛・緩和ケア科の蔵本浩一先生を中心にして、当院に院外より講師を招き、8名のファシリテーターで実施した。

②2021年度も実施する計画を立てている。

2) 講演会

COVID-19感染拡大防止のため中止。

3) 勉強会

COVID-19感染拡大防止のため中止。

4) 専門職勉強会

1)地域のがん看護勉強会として

地域勉強会として当院を会場にして実施した。

① がん看護基礎コース研修

6/29(月)23名・7/6(月)23名

「がん看護総論Ⅰ」

「がん看護総論Ⅱ」

「手術療法と看護」

「化学療法と看護Ⅰ」

「化学療法と看護Ⅱ」

「放射線療法と看護」

「緩和ケア」

「スピリチュアルケア」

「オンコロジック・エマージェンシー」

「グループワーク」

「がん患者のAYA支援」

黒田宏美(亀田総合病院 がん看護専門看護師)

松崎晃子(亀田総合病院 乳がん看護認定看護師)

北浦寿子(亀田総合病院 化学療法看護認定看護師)

川名清子（亀田総合病院 乳がん看護認定看護師）
鈴木美穂（亀田総合病院 緩和ケア認定看護師）
関根龍一（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科）
宮地康僚（亀田総合病院 腫瘍内科）

② がん看護実践コース研修

11/30日（月）15名・12/7（月）14名

「基本的なコミュニケーションスキルⅠ」

「基本的なコミュニケーションスキルⅡ」

「がん患者の意思決定支援の実際」

「多職種とのコミュニケーション」

「がん患者・家族とのコミュニケーションⅠ」

「がん患者・家族とのコミュニケーションⅡ」

「がん患者・家族とのコミュニケーションⅢ」

「がん患者・家族とのコミュニケーションⅣ」

「グループワーク」

黒田宏美（亀田総合病院 がん看護専門看護師）

北浦寿子（亀田総合病院 化学療法看護認定看護師）

松崎晃子（亀田総合病院 乳がん看護認定看護師）

高梨美穂（亀田総合病院 精神科認定看護師）

瀬良信勝（亀田総合病院 緩和ケア室チャプレン）

③ 地域連携 WEB 看護勉強会「暮らしをととのえ生活にいろどりを」

2/26（金）9名

佐々木真弓（亀田訪問看護センター 訪問看護認定看護師）

- 5) 厚生労働省に年1回現況報告書を提出し更新手続きを行なって問題なく更新している。
- 6) 強化事業費をがん関係のあらゆる事業で有効的に活用できるよう管理運用している。
- 7) がん拠点病院報告会を年間1回実施し、情報収集及び共有する場としている。
- 8) がん診療連携協議会の各部会委員の参加促進及び会議での報告依頼をしている。

文責: 亀田 俊明